

# 定置網からクロマグロを逃がす勉強会

## —幼魚を掬うタモ網の開発を目指して—

現在、クロマグロは国際的な資源管理が行われており、漁獲量が制限されていることから、静岡県定置漁業協会は、県の「水産イノベーション対策事業」を活用して、定置網に迷入したクロマグロを効率的に網外に逃がす体制や手法の開発を行っています。

9月25日に同協会役員を対象として、網内に迷入したクロマグロの幼魚を効率的に網外に逃がす「タモ網」作製のための勉強会を開催しました。本県の「たもすくい網漁業」で用いられている、軽くて水中抵抗が少ないタモ網をベースとした新しい網の作製を検討しており、講師として招聘された元たもすくい網漁師の濱野氏が網の特徴や構造について講演しました。濱野氏によると、たもすくい網漁業用のタモ網で掬った魚は活きが良い(魚体へのダメージが少ない)とのことであり、クロマグロの幼魚を生きのまま網外へ逃がす上で最適なタモ網といえます。

今後、定置網乗組員を対象としたタモ網作製実技講習の実施が予定されており、その後、作製したタモ網の試験運用が行われる予定です。



写真 濱野氏の講演の様子

(鈴木勇己)